

「Doodle図式の一般化と交換子関係式」

講師：鎌田聖一 先生 (大阪大学)

日時：8月18日(水) 14:00～ 場所：4号館 小講義室1

概要

平面または球面上のいくつかの閉曲線のはめ込みによる像で、多重点が横断的に交わる2重点のみであるものをDoodle図式という。1角形の生成と消去(1型R変形)と2角形の生成と消去(2型R変形)を有限回施して移り合う図式を(doodleとして)同値であるとみなして、その同値類のことをdoodleという。この概念は、R. FennとP. Tayler(1979)により導入され、M. Khovanov(1997)により再定式化された。講演者とA. Bartholomew, R. Fenn, N. Kamadaは、一般の有向閉曲面上のdoodle図式を考え、その安定同値類が、仮想交点を許した平面上のdoodle図式の同値類(仮想doodle)と対応がつくことを示した。この講演の前半で、上の関係について説明し、後半では球面上のdoodle図式と自由群の交換子関係式との関係について解説する。

世話人：鎌田直子 (内線：5854)